

## アクティブ・ミドルステージ合同研修

第一回：令和5年8月28日(月)

第二回：令和5年11月7日(火)

奈良市立高円こども園

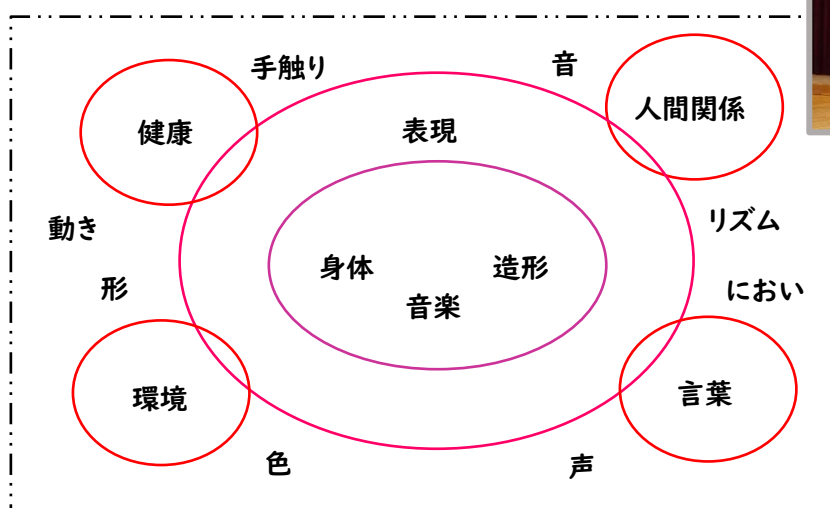
講演 「ドッキング遊び ～様々な領域を意識して～」

講師 帝塚山大学 岡澤 哲子氏

### 【理論編】

遊びの中にある領域を意識しよう！

#### 1. どの遊びの中にも、5領域がドッキングしている



子どもは、5領域の中にある遊びから、色々な物を取り込んで総合的に遊んでいる

2. 体は全ての中心になっており、体は心（気持ち）を表している
3. 保育とは…子どもに「太陽の光」を当てて（保育者は太陽）子どもは保育者がねらいとする色の光だけでなく、子どもが色々な色の光を発見するように応援する営み  
《保育者が意図したねらい以外で、おもしろさを発見している子どもはすごい!!  
それを保育者が肯定的に受け止めること》
4. 領域を意識し、決まった型にはまっていないか、こんな風にも楽しめる、と考える

### 【実技編】～ドッキング遊びから、運動会へ向けた身体表現遊びのヒント

身体表現に「こうしなくてはいけない」はない!～

色々なねらいがあることを意識して遊ぼう!

#### ① ハンカチ遊び（全員で）

- ・手首にハンカチを巻いて歩き、合図でハンカチを巻いた手を上に挙げ、近くにいる人と互いの手が触れ合わないようぐるぐる回しあう。



- ・ハンカチを身体（自分や人）の色々な部位に置く。  
例：目・鼻・肘・膝・腰・足の甲・友達の前



② なななななー遊び（グループで、縄跳びを使って）

- ・「なななななー縄跳び」とコール  
⇒縄跳び（4つ折り）で体にくぐらす
- ・「なななななー名前」とコール  
⇒グループの人の名前を言う、言われたら返事する
- ・「なななななー鳴き声」とコール  
⇒好きな動物の鳴き声をする



☆「文字」や「言葉」を教えるのではなく、遊んでいる中で「な」のつく言葉はたくさんあるんだと感じたり気付いたり、生活の中で言葉と仕草が結びついたりする

③ どんな顔が好きですか

- ・♪あなたのおなまえは」のメロディーに合わせて「♪どんな顔が好きですか～」

例 笑った顔 怒った顔 泣いた顔 ふざけた顔 無表情

☆段ボール等で枠をつくり顔の前で持ち、歌詞に合わせた表情をする

枠があることで、表情をつくることへの抵抗感が軽減される

☆一人一人の表情を認めることが大事

☆いろいろな表情があるが、笑った顔が一番つくりやすいことを体験する

④ だるまさんかかし（グループで）

- ♪だるまさん（座って目を隠す） だるまさん（かかしのポーズで片足立ち）
- にらめっこ（座ってにらめっこ） しましよ（かかしのポーズで片足立ち）
- わらうと（笑い合う） まけよ（かかしのポーズで片足立ち）
- あっぷ（ほっぺた膨らます） っぷ（かかしのポーズで片足立ちして変顔）

⑤ 太陽（手作り）を持ってグループ対抗パフォーマンス

- ・「手のひらを太陽に」の曲に合わせ  
即興で身体表現のアイデアを出し合い発表



☆いろいろな表現方法を認め合いながら、みんなで一つのものを作り上げていく過程で充実感や満足感を味わうことができる

- ⑥ リアル茶つぼ（1人で、2人で）  
・つぼの蓋を作って、顔をつぼに見立てて遊ぶ
- ⑦ フーフーヨット遊び（折り紙とストローを使って）  
・フーフーヨットを折り、床の上に置いてストローで吹きながら前進させる
- ⑧ ダンスバトル  
・お題の動きを身体で表現する  
お題の例：タオル（手ぬぐい）・紙でっぼう・オープンペーパー・打楽器など

☆保育者が“表現遊びは楽しい”という気持ちをもつことで  
子どもも楽しんで行うことができる



#### 【参加者の声・気づき】

- ・複数の先生と話し合いながらの演習を受ける中で、話し合いを重ねるからこそより良い案が出ることを学んだ。
- ・実際に身体を動かすことで表現することの楽しさを知り、人と触れ合って遊ぶことで人との関わり方が学べることを体感することができた。
- ・グループワークを通して、若手の先生の柔軟な発想を聞くことができ、先輩の先生が話を振ったりまとめたりする姿からグループワークでの立ち回り方を学ぶことができ、相互の勉強に繋がったと感じる。
- ・保育にドッキング遊びを取り入れることで、子ども達に、色々な表現の仕方があること、一人一人の表現や発想は違うということが伝わってほしい。
- ・運動遊びに苦手意識があったが、研修を通して自らが楽しさを感じ、簡単な遊びで表現できることを学んだ。
- ・実践を通して意識してみると、表現の中にいろいろな5領域が含まれていることを改めて感じた。
- ・他園の同じステージの方と話したり関わったりする機会があまりないので、これからも合同で関わりながら研修をする機会が増えてほしいと思う。

作成者 幼児教育アドバイザー 林 真由美  
宮崎 敦子